

「岩手・宮城内陸地震における奥州保健所の対応について」(岩手県 県南広域振興局)
 野村 暢郎 氏 (保健福祉環境技監奥州保健所 所長)
 澤口 眞規子氏 (保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課健康推進総括主任主査)
 奥寺 三枝子氏 (保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課感染症・精神保健チーム総括主任主査)

頻発する自然災害

1995.1.17	阪神淡路	6強	死者6,437 負傷43,792	2005.1.18	釧路沖	5強	負傷1
2000.10.6	鳥取西部	6強	負傷182	.2.16	茨城南部	5弱	負傷26
2001.3.24	芸予	6弱	死亡2 負傷288	.3.20	福岡西部	6弱	死亡1 負傷1,087
2003.5.26	宮城県沖	6弱	負傷174	.4.11	千葉北東部	5強	負傷1
.7.26	宮城県北部	6強	負傷677	.4.20	福岡西部	5強	負傷58
.9.26	十勝沖	6弱	死亡1 負傷849	.7.23	千葉北西部	5強	負傷38
2004.9.5	紀伊半島	5弱	負傷36	.8.16	宮城県沖	6弱	負傷100
.10.23	新潟中越	7	死亡68 負傷4,805	.8.21	新潟中越	5強	負傷2
.11.29	釧路沖	5強	負傷52	2006.6.12	大分県西部	5弱	負傷8
.12.6	室根半島沖	5強	負傷12	2007.3.25	能登半島	6強	死亡1 負傷356
.12.14	北海道北部	5強	負傷8	.7.16	新潟中越沖	6強	死亡15 負傷2,345
				2008.6.14	岩手・宮城 内陸	6強	死亡22 負傷242
				.7.24	岩手北部	6強	死亡1 負傷184

奥州保健所の保健指導対応【時系列】

フェイズ	全県・保健所	保健指導	栄養・食生活指導
6月14日8:43 M7.8 震度6強 フェイズ0 発生後24時間以内	災害対策本部設置 ・情報収集 ・関係施設被害調査 ・避難所3ヶ所84人	要支援者(難病、精神) 安否確認、状況把握	給食施設被害調査 被災施設巡回指導
フェイズ1 発生後72時間以内	・避難所状況調査 ・断水状況確認900世帯	心のケアチーム始動 メンタルヘルス支援 計画検討会 感染症予防衛生指導	市食生活支援状況確認 炊出し計画を指導 食生活支援対応会議 食生活支援物資依頼
フェイズ2 4日目～1ヶ月後	・避難所状況調査 ・ライフライン状況調査 ・仮設住宅建設開始 ・自衛隊給水衛生指導	奥内保健所保健師派遣 精神障がい者家庭訪問	心と栄養の健康教室 16ヶ所 237人 食改員炊出し指導 仮設住宅設置介入
フェイズ3 1ヶ月以降	・市町村活動の支援	ケア対策会議(災害支援対応情報交換) 心のケア指導リーフレット作成 事業予算確保	危機管理時の栄養・食生活 支援システム構築事業予算確保

「岩手・宮城内陸地震における奥州保健所の対応について」（岩手県 県南広域振興局）

野村 暢郎 氏（保健福祉環境技監奥州保健所 所長）

澤口 真規子氏（保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課健康推進総括主任主査）

奥寺 三枝子氏（保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課感染症・精神保健チーム総括主任主査）

奥州保健所のこころの支援

I 災害時メンタルヘルス支援計画の策定

6月16日、20日に検討会を開催し支援計画策定

II メンタルヘルス支援

1	衣川区への支援	高齢者サロン、北股・南股地区、障害者、未就学児、高齢者、避難所（1,769人）
2	胆沢区への支援	高齢者サロン、被害の大きかった地区、障害者、未就学児、高齢者、避難所（293人）
3	幼稚園・保育園・小学校の子どもへの支援	学校・幼稚園・保育園からの依頼により専門家チームの相談（42人）
4	ハイリスク者支援 （ブナ原生林を守る会、胆沢ダム、等）	健康教育・健康相談・パンフレットの配布、家庭訪問、等 メンタルチェック（K10、SQD）
5	こころの健康教育	サロン、保育園などでの講話（16回 393人）

III 支援チームの状況

1	日赤	6月23日～27日 延15人 家庭訪問・避難所の健康観察
2	県内の保健所保健師	6月25日～30日 延6人 6月30日～7月4日 延14人 障害者家庭訪問、全戸訪問、避難所の健康観察
3	岩手県立大学看護学部	6月30日～7月3日 延11人 家庭訪問
4	岩手県看護協会	6月30日～7月4日 延8人 家庭訪問
5	子どものこころのケア専門家チーム	6月18日～7月17日 延40人 学校訪問、保育園訪問、家庭訪問

IV 会議・研修会の開催

- ・「災害時こころのケア勉強会」 6月18日 関係者125名参加
- ・「胆沢地域被災者こころのケア検討会」 8月6日 今後の支援計画の検討

「岩手・宮城内陸地震における奥州保健所の対応について」(岩手県 県南広域振興局)

野村 暢郎 氏 (保健福祉環境技監奥州保健所 所長)

澤口 眞規子氏 (保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課健康推進総括主任主査)

奥寺 三枝子氏 (保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課感染症・精神保健チーム総括主任主査)

災害の教訓を活かして(保健指導)

こころのケア支援事業

目的	災害支援も中長期に入り、ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチ、精神科医療体制の確保、支援者ケア、研修体制などについて検討し、災害後のこころのケア支援事業を確立する。
事業主体等	主体/岩手県県南広域振興局(奥州・一関保健所) 事業費/地域振興推進費1,258千円 事業期間/20年9月~21年3月
事業内容	1 胆江地域被災者こころのケア対策会議の開催 2 「災害後のこころのケア」リーフレット作成 3 研修会の開催 4 その他

今後の予定 「災害支援の評価検討会」の開催

- ①岩手県精神保健福祉センター ②奥州保健所管内関係者

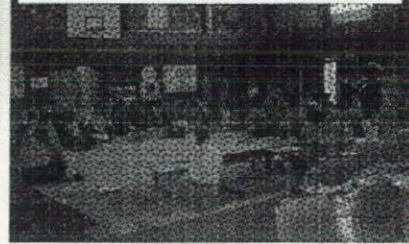
残された課題

- ①災害時の難病患者支援対策 ②感染症対策

「災害時こころのケア勉強会」6月18日



衣川区北股地区健康教育・全戸訪問説明会



衣川区サロンでの健康教育・健康相談



「岩手・宮城内陸地震における奥州保健所の対応について」(岩手県 県南広域振興局)

野村 暢郎 氏 (保健福祉環境技監奥州保健所 所長)

澤口 眞規子氏 (保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課健康推進総括主任主査)

奥寺 三枝子氏 (保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課感染症・精神保健チーム総括主任主査)

栄養・食生活支援対応の緊急性

普通の食事が食べられない住民が多い・・・

国民の3人に1人(32.5%)

4,154万人が栄養・食形態コントロールが必要

即時	1日以内	3日以内	1週間以内
<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー329,423人、喘息730,466人、アトピー性皮膚炎361,534人 ・産乳期乳幼児699,086人 ・居宅介護高齢者9,520,000人 			
<ul style="list-style-type: none"> ・小児慢性特定疾患罹患者13,698人 ・糖尿病罹患者2,469,000人 ・難病罹患者(特別な栄養管理)111,535人 ・難病罹患者(食形態管理)74,495人 ・胃、大腸、肝等の悪性新生物罹患者306,500 			
<ul style="list-style-type: none"> ・高血圧疾患罹患者5,560,008人 ・虚血性心疾患罹患者614,456人 ・脳血管疾患罹患者971,880人 			
<ul style="list-style-type: none"> ・メタボリックS該当者9,400,000人 ・メタボリックS予備群10,200,000人 			

厚生労働省地域保健総合推進事業「健康危機管理時の食生活支援及び
公衆栄養活動における保健所管理栄養士業務検討」2007報告書より

食生活支援の準備はできていたか？

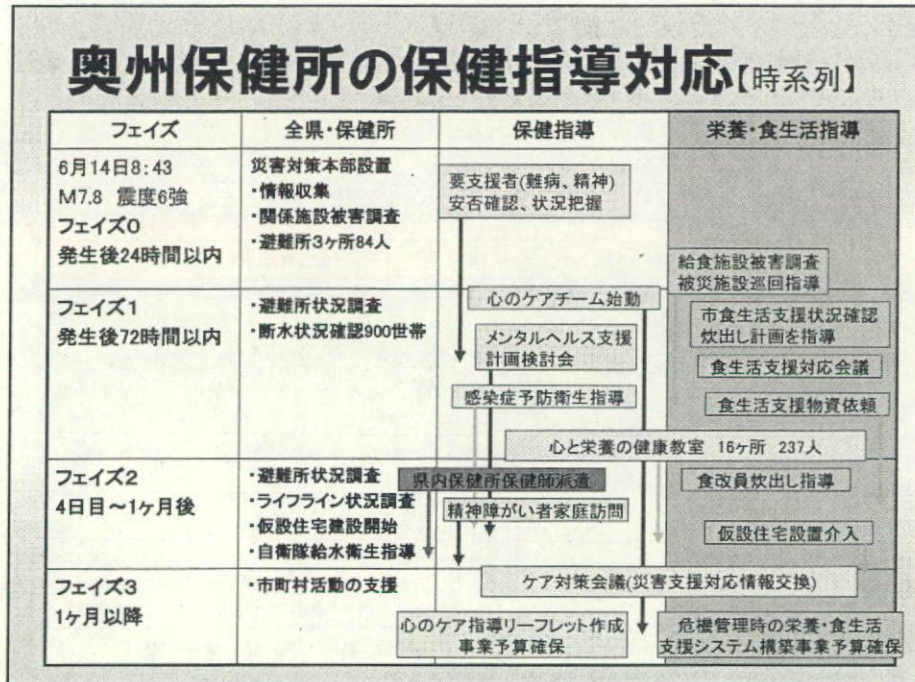
主体	根拠法令等	食生活支援の 具体的記載
国	●災害対策基本法	なし
	●災害基本計画	なし
	●厚生労働省防災業務計画	△?
	●厚生労働省健康危機管理基本指針	なし
岩手県	■岩手県防災計画 保健指導方法、食料調達の関係機関の分担	△?
	■岩手県食料支援計画 食料提供の対象、種類、数量、備蓄食品	△不完全 担当者不明瞭
	■岩手県健康危機管理計画	未整備
	■災害対策本部奥州市部運営要領	なし
	■奥州圏域健康危機管理マニュアル	未整備
奥州市	★奥州市災害応急対策計画	なし
	★奥州市健康危機管理マニュアル	未整備
給食施設	▼施設内危機管理マニュアル	策定率11.1%
	▼給食施設相互支援システム	未整備

「岩手・宮城内陸地震における奥州保健所の対応について」（岩手県 県南広域振興局）

野村 暢郎 氏（保健福祉環境技監奥州保健所 所長）

澤口 眞規子氏（保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課健康推進総括主任主査）

奥寺 三枝子氏（保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課感染症・精神保健チーム総括主任主査）



奥州保健所の栄養・食生活支援

1	特定給食施設に対する指導	・断水対応(備蓄食品利用、献立変更) ・代替施設での給食実施
2	災害時健康食生活支援対応会議	・災害対応状況、食生活支援の重要性確認 ・関係団体の連携協力
3	炊出し支援	・食生活改善推進員による食事提供
4	栄養相談指導	・「心と栄養の健康教室」の開催 ・熱中症予防、低栄養予防
5	食生活支援物資の提供による栄養支援	・協賛企業に食品・衛生物資支援を依頼 (非常時は栄養教育よりも現物支給)
6	食生活状況アンケート	・「看守り必要性確認シート」に項目追加 ・食欲低下12.2%、便秘ぎみ15.7%、下痢気味2.4% 不安・不眠で体調悪化
7	仮設住宅設置に対する支援	・新潟の事例を参考に改善案を県担当課に助言(風除室、台所コンロ、風呂洗い場、防音壁、二重サッシ窓、エアコン、等)

※ 研究班活動、先進地からの情報提供のお陰

「岩手・宮城内陸地震における奥州保健所の対応について」(岩手県 県南広域振興局)
 野村 暢郎 氏 (保健福祉環境技監奥州保健所 所長)
 澤口 眞規子氏 (保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課健康推進総括主任主査)
 奥寺 三枝子氏 (保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課感染症・精神保健チーム総括主任主査)

地域ボランティアによる炊出し支援



災害の教訓を活かして

危機管理時の栄養・食生活支援対応システム構築事業

目的	岩手・宮城内陸地震における栄養・食生活支援の困難状況を反省し、災害時を中心とした危機管理時における安全・安心な栄養・食生活支援対応のあり方を示すとともに、効果的実現に向けた関係団体等の機能分担とネットワークを構築する。
事業主体等	主体/岩手県県南広域振興局 (奥州・花巻・北上・一関保健所) 事業費/地域振興推進費1,272千円 事業期間/20年9月～21年3月
事業内容	1 危機管理時の栄養・食生活支援ガイドラインの作成 掲載内容 ①地震における栄養食生活対応状況報告 ②災害対策整備の現状 ③対応の方向性(先駆的事例の紹介) 2 ガイドライン作成ワーキング 3 特定給食施設災害対応の現状調査 4 危機管理時の栄養・食生活支援シンポジウムの開催

岩手県食料支援計画に食生活支援、事前協定の盛り込み

「岩手・宮城内陸地震における奥州保健所の対応について」（岩手県 県南広域振興局）

野村 暢郎 氏（保健福祉環境技監奥州保健所 所長）

澤口 眞規子氏（保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課健康推進総括主任主査）

奥寺 三枝子氏（保健福祉環境部奥州保健所保健衛生課感染症・精神保健チーム総括主任主査）

まとめ

- **保健所は地域状況、住民ニーズに応じた迅速対応ができた**
マニュアルはなかったが、何が必要か、何をすべきか、その場で判断し所内の総力をあげて対応した
- **県としての危機管理対応の準備不足**
保健指導対応マニュアル、保健師等派遣システム、DMATの対応・活用、栄養・食生活支援の必要性の理解
- **現場重視の対応ができなかった**
県庁との温度差、本庁の主管課の未決定
- **合併後の奥州市各区の連携不足**

研究会 講演 3

2008 年における自然災害と保健活動 「岩手・宮城内陸地震における 奥州保健所の対応について」

岩手県 一関保健所

橋本 功 (岩手県一関保健所所長)
水車 榮子 (岩手県一関保健所保健課上席保健師)

2008 年 11 月 13 日 (木)

「平成20年岩手・宮城内陸地震災害の対応」（岩手県一関保健所）

橋本 功 氏（一関保健所 所長）

水車 榮子氏（一関保健所保健課 上席保健師）

災害・重大健康危機管理の発生後の対応対策及び健康被害抑止策に関する研究
第1回研究会議原稿 H20.11.13 於：三菱総合研究所

平成20年岩手・宮城内陸地震災害の対応

岩手県一関保健所

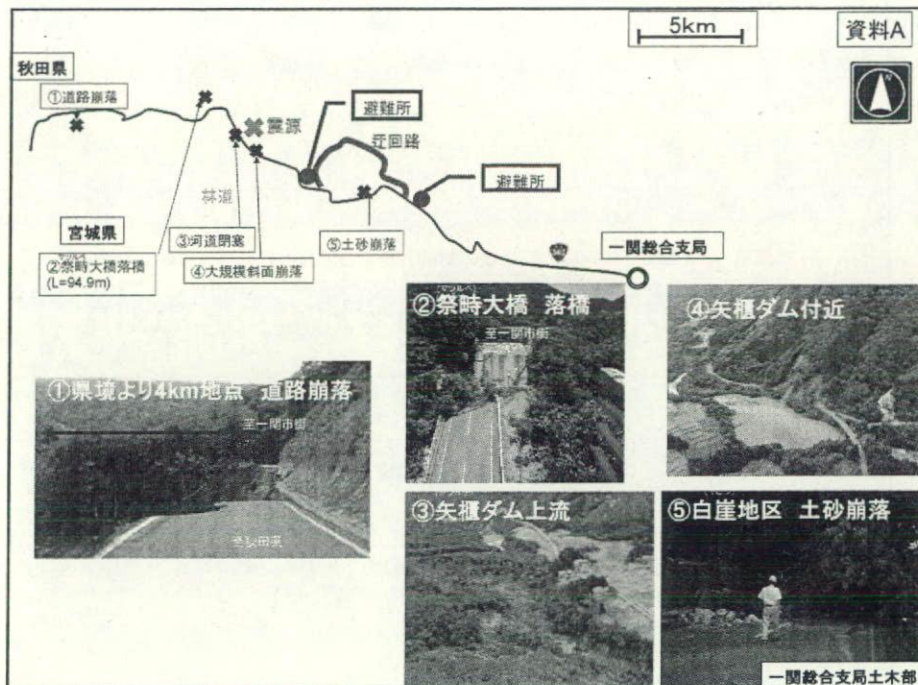
地震発生

- 平成20年6月14日（土）8時43分
- 震源地：岩手県一関市巖美町
- 震源の深さ8km・M7.2・震度5強・直下型
- 死者1名・軽傷者2名
- 住家被害：全壊1棟、半壊2棟、一部損壊145棟
- 余震：548回（8／8現在）

「平成20年岩手・宮城内陸地震災害の対応」(岩手県一関保健所)

橋本 功 氏 (一関保健所 所長)

水車 榮子氏 (一関保健所保健課 上席保健師)



被害地域

- 一関市の人口: 123,048人
- ハイリスク地域: 巖美町1,514人
- 避難勧告: 32世帯67人

発生直後の活動

- 情報収集・管内の被災状況の把握
- 難病患者の被災状況の把握
- 人的支援の調整
- 避難所支援
- 災害時対応所内検討会
- こころのケア対応検討会
- 支援チーム（こころのケアチーム・県内派遣保健師チーム）への活動内容の説明、活動前後のミーティング等

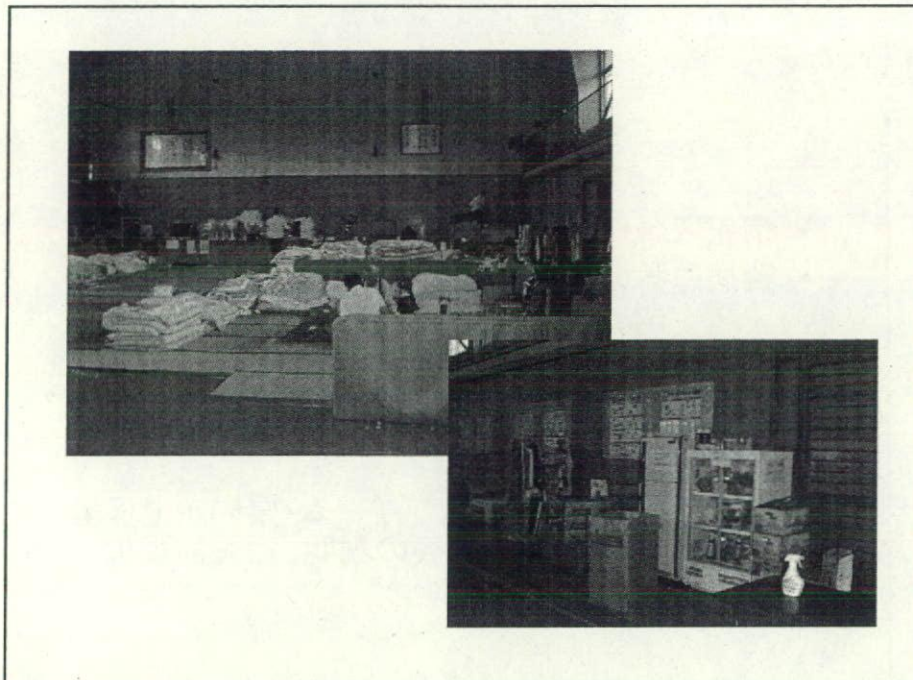
避難所での活動

- 避難者10世帯39名（22世帯28名は親戚等へ避難）
- 災害直後見守りシートによる健康調査及び処遇検討
- 健康観察（市、保健所、精神保健福祉センター）
- こころのケア・感染症予防についてチラシ配布、消毒薬の配備

「平成20年岩手・宮城内陸地震災害の対応」(岩手県一関保健所)

橋本 功 氏(一関保健所 所長)

水車 榮子氏(一関保健所保健課 上席保健師)



ハイリスク地域の健康調査

- 434世帯 1447人(うちハイリスク89世帯110人)に実施
- 家庭訪問401世帯1368名にからだところの健康相談・K10実施
(市、保健所、派遣保健所、精神保健福祉センター)
 - ころろチーム 64世帯108名
 - 保健所チーム 66世帯224名
 - 一関市チーム 271世帯1036名
- 電話相談33世帯79名(不在者)
) フォロワー者97名

「平成20年岩手・宮城内陸地震災害の対応」（岩手県一関保健所）

橋本 功 氏（一関保健所 所長）

水車 榮子氏（一関保健所保健課 上席保健師）



フォロー者の内訳

- こころのケアチームに引き継いだもの 9件
 - こころのケアチームが担当したもの 6件
 - 保健所でかかわったもの 4件
 - 一関市でかかわったもの 41件
 - 福祉部門へ情報提供したもの 26件
 - 災害対策本部に情報提供したもの 11件
- 合計 97件(6.7%)

フォロー者(こころのケア)21名

精神障がい者2名(要医療中)ASD1名(要見守り) 回復18名(～2週間3名～1ヶ月12名～2ヶ月3名)

支援チーム(こころのケア)

- ・ 東京都中部精神保健福祉センター(5日間)
- ・ 1人暮らし高齢者、高齢者世帯、障がい者世帯の訪問相談 64世帯108人
フォロー者:ASD6名(見守り2名) 気分障がい1名(不要)人格障がい1名(不要)認知症1名(不要)
- ・ 避難所
フォロー者:ASD4名・感情障がい1名(要医療1名・見守り3名・回復1名)

支援チーム

- ・ 東京都梅が丘病院 2世帯3人(児童)不要
- ・ 静岡県立こども病院
本寺小・中学校教師対象講演会
- ・ 神奈川県立こども医療センター 3世帯3人不要
- ・ 市立札幌病院静療院 3世帯3人(児童1名)不要
- ・ 岩手医科大学附属病院 2世帯2人不要
- ・ 県立南光病院避難所 巡回相談、精神保健相談
3世帯4名 ASD 要医療1名・見守り3名
- ・ 岩手県精神保健福祉センター
巖美地区保健推進員対象講演会

被災後3ヶ月頃までの活動

- ・一関地域災害時こころのケア対策会議
中長期(1~3ヶ月)の活動について
 - ・フォロー者の見守りとケアの提供調整
 - ・PTSD、うつ等に関する健康教育・啓発・スクリーニング及び受診支援
 - ・援助者のこころのケア等
- ・平成20年度岩手・宮城内陸地震災害対応懇談会
出席(一関市主催)
- ・一般住民へ健康教育実施(一関市)
- ・かかりつけ医等へ被災後のこころのケア研修会

「平成20年岩手・宮城内陸地震災害の対応」(岩手県一関保健所)

橋本 功 氏(一関保健所 所長)

水車 榮子氏(一関保健所保健課 上席保健師)

1 帰宅時持参用餌・飲水等物資(20.6.17)



2 被災者帰宅出発時状況(20.6.17)



「平成20年岩手・宮城内陸地震災害の対応」(岩手県一関保健所)

橋本 功 氏(一関保健所 所長)

水車 榮子氏(一関保健所保健課 上席保健師)

3 保健所・獣医師会待機状況(20.6.17)



4 動物搬送用ケージ(20.6.18)



「平成20年岩手・宮城内陸地震災害の対応」(岩手県一関保健所)

橋本 功 氏(一関保健所 所長)

水車 榮子氏(一関保健所保健課 上席保健師)

5 保健所職員による救護方法説明・確認(20.6.18)



6 収容後の状況(20.6.18)

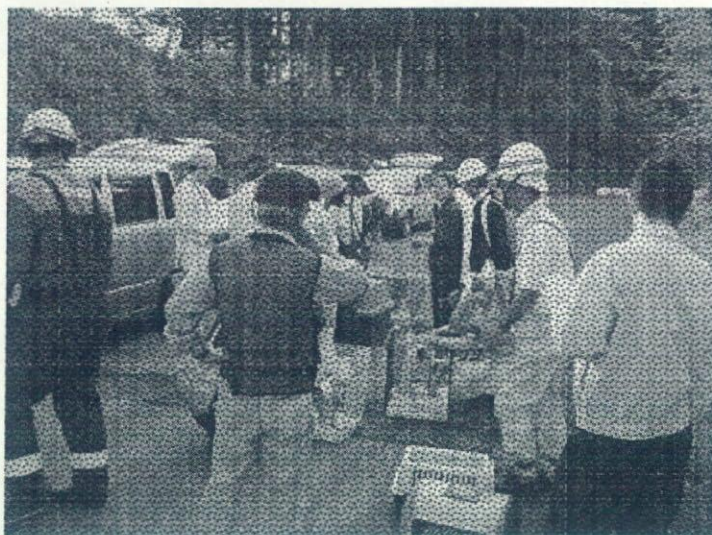


「平成20年岩手・宮城内陸地震災害の対応」(岩手県一関保健所)

橋本 功 氏(一関保健所 所長)

水車 榮子氏(一関保健所保健課 上席保健師)

7 獣医師会による帰還後の動物の状況チェック(20.6.18)



8 収容猫(左)、収容犬(右)(20.6.18)

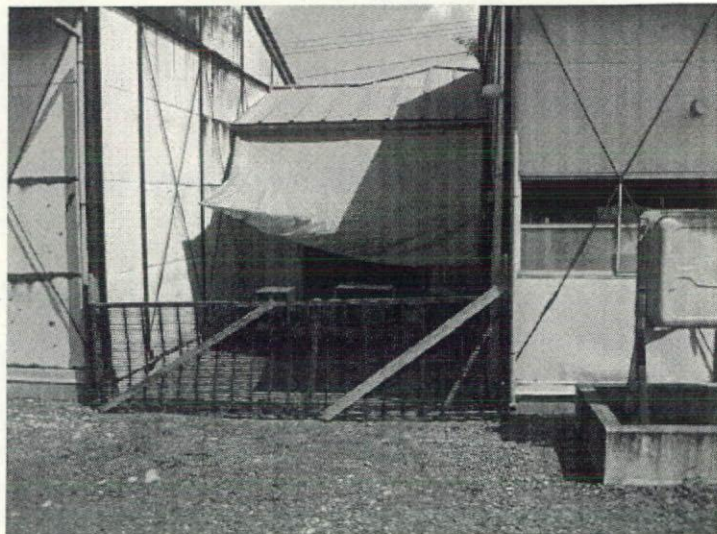


「平成20年岩手・宮城内陸地震災害の対応」(岩手県一関保健所)

橋本 功 氏 (一関保健所 所長)

水車 榮子氏 (一関保健所保健課 上席保健師)

9 避難所動物収容施設(20.8.5)



10 飼育状況(20.8.5)

